

# 宇陀を駆けた人々

高山 右近 篇 1

## 新たな澤城主

高山右近をご存じですか。戦国時代から江戸時代初期の武將で、キリシタン大名としても活躍しました。少年時代、右近は、ここ宇陀で過ごしました。

高山氏は、摂津国三島郡高山庄（現在の大阪府豊能町高山）出身の国人領主です。右近は、天文21年（1552）頃に生まれ、彦五郎と名付けられました。父の友照（別名：図書）は、三好長慶の家臣として松永久秀の与力となっていました。

永禄2年（1559）、松永久秀は、摂津の武士を率いて、大和に侵攻し、翌年には大和一国を支配しました。宇陀郡も松永久秀の勢力下となり、宇陀三人衆（宇陀三将）とも呼ばれた秋山氏・澤氏・芳野氏らは、伊賀国などへ逃れました。

宇陀へは、右近の父・友照が入り、澤氏に代わって、新たな澤城主となりました。この時、一緒に右近も澤城へと入ったのです。

永禄6年（1563）、宣教師が堺を訪問することを知った僧達は、



文・柳澤一宏（文化財課）

松永久秀に宣教師の追放を依頼しました。松永久秀は、宣教師と仏教についての知識のあるもので討論させた上で、なにか不審な点があれば追放しようと考え、高山友照と結城忠正を討論の審査役としました。この討論のなかで審査役のふたりは、キリスト教の教えに感化し、洗礼を受けました。高山友照は、熱心なキリスト教徒となり、家族や家臣、周囲の領主らに布教しました。

この頃の澤城内の様子を伝える史料としては、ポルトガルの宣教師・ルイスフロイスが書いた『日本史』があります。次号でご紹介することとしましょう。



## 一緒に考えてみましょう

言葉に関するクイズをひとつ。  
次の「？」にあてはまるのは・・・

「？」が  
ヒント：生きていくために必要なものです。

みなさんは「？」がりと聞いて、どんな言葉が浮かびますか？

自分は誰の助けを借りなくとも、一人で大丈夫という強がりの人はいませんか。自分がやらなくても、誰かがやってくれるだろうという面倒くさがりも困ります。

人との関係を考えるうえで、自分の独りよがりではダメですね。相手の立場に立つて考えたり、話したりして、相手のことを知れたがりになっ

てほしいものです。  
初対面の人に、なかなか話しかけにくいという恥ずかしがりの人も多いかもしれません。人との関わりをどうするか、決断して目立ちたがりではありません。

本来、人は一人では生きていけないさびしがりで、人は誰かとつながって支え合っているから楽しさややりがいを感じるのではないのでしょうか。

ここでクイズの解答です。  
人が生きていく上でなくてはならないもの。  
それは人と人との「つながり」です。

人と人がつながるって、なかなかむずかしいものです。考え方や価値観、文化のちがいで、いろいろな人がいて社会をつくっています。だから相手の顔を見て、思いや気持ちを感じながら意志を通じ合うことが大事です。（相手の顔が見えないほうが言いやすいこともあるかもしれませんが。）

お互いのつながりを一層大切にしていくまことにしていきたいものです。

